

原始・古代の遺跡が語る人々の営み



どれいがた
土鈴形土偶▶

◀子抱き土偶(複製)

辺名遺跡

原始・古代の人々は、 八王子でどんな暮らしをしていた？

八王子は、原始時代からの人々の生活の痕跡が見られる「遺跡のまち」です。遺跡からは石器や土器などの様々な遺物が発掘されています。遺物の発掘場所や地面からの深さ、種類や形状などから、原始・古代の人々の暮らしがわかってきます。特徴的な遺物から、遺跡が語る原始・古代の人々の暮らしを読み解いてみましょう。

自然豊かな地形に恵まれた八王子は、自然の恵みを糧とする原始・古代の人々にとって、住みやすい地域だったと考えられます。

およそ3万5,000年前の旧石器時代に人々が暮らしていた痕跡が多摩ニュータウンNo.402遺跡(松木)で確認されています。そのほかにも市内各地域で、旧石器時代から平安時代にかけての人々の生活の痕跡が数多く見つかっています。

様々な造形美を感じさせる縄文土器からは、厳しい狩猟採集生活の中でも、人々が創造性に富んだ豊かな心を持っていたことが感じられます。例えば、発掘された「子抱き土偶」や「土鈴形土偶」には、母親の愛情が感じられる造形が施されています。

八王子に暮らした人々は、遥か昔から自然と共に歩み、共同生活を営み、人や自然に対する優しさを持ち合わせていたのでしょう。そうした人々の心は、人や地域とのつながりを大切にしながら暮らし、発展してきた八王子の根底に受け継がれているのかもしれません。



◀とって
把手付深鉢



人面装飾付土器▶

遥かなる原始・古代の生活

八王子には、遥か昔から人々が暮らし続けてきました。縄文人が残した子抱き土偶から感じられる愛情表現や芸術性の豊かさは、今の時代を生きる私たちに、命を大切にする心、郷土や自然を愛する心について、時を超えて語りかけているかのようです。それでは、発掘された八王子から、いにしえの人々の暮らしに思いをはせてみましょう。



市内最古の遺跡から出土した石器
(東京都埋蔵文化財センター)

◎ 豊かな自然との共生 ◎

およそ3万5,000年前の石器が多摩ニュータウンNo.402遺跡で見つかりました。これは八王子で最古の人の痕跡といわれています。やがて、人々は狩猟採集生活に適したこの土地に定住しました。

数万年の時を経て、わたしたち現代人も同じ丘陵地にニュータウンを建設しました。自然豊かな土地で暮らしたいという思いは、昔も今も変わりません。

◎ 縄文土器の造形美 ◎

縄文土器特有の立体的な模様や造形には、製作者の創造性に富んだ豊かな心が感じられます。実用性から切り離されたその造形美は、縄文人の暮らしの中に息づく美意識を伝え、現代人を魅了しています。



把手付深鉢(滑坂遺跡)
高さ約52cm



ジョッキ形の深鉢(日南田遺跡)
高さ約14cm

土器・土偶から ◎ 感じられる優しさ ◎

妊婦をかたどった「土鈴形土偶」や赤ちゃんを抱いた「子抱き土偶」からは子育ての様子がうかがえ、命を大切にしようという優しさ、家族愛が感じられます。また、とても小さな「ミニチュア土器」は、子どものおもちゃや祭祀の道具に使われたと考えられています。



ミニチュア土器(神谷原遺跡)
手前左高さ約3cm



土鈴形土偶(檜原遺跡)
高さ11cm



子抱き土偶(宮田遺跡、複製)
高さ7cm



イノシシ形土製品(滑坂遺跡)
高さ6.3cm

◎ 自然への畏敬 ◎

縄文時代の集落の遺構が発見された滑坂遺跡(みなみ野五・六丁目)から、可愛らしいイノシシ形の土製品が出土しました。イノシシは、一度に4~5頭の子どもを産む多産の象徴として知られています。その生命力に、自らの繁栄の願いを託していたのでしょうか。イノシシや自然への畏敬の念が感じられます。

◎ 珍しい小銅鐸 ◎

弥生時代の青銅器「銅鐸」は、一般的にはその高さは10~140センチメートルですが、中郷遺跡(長房町)で出土した小銅鐸の高さはわずか3.3センチメートルで、都内では2例しか出土していない珍しいものです。小さな銅鐸は、祭祀で用いられたと考えられます。祈りは、このころの人々にとっても大切なことであったのでしょうか。



小銅鐸(中郷遺跡)
高さ3.3cm

原始時代の人々の衣・食・住

アクセサリー

縄文時代は身体装飾が盛んな時代だったようです。首飾り・耳飾り・腰飾りなどを身に付け、その素材は、石・土・木・骨・牙・貝など多種多様なものでした。

中でも耳飾りは、縄文社会の中で一番身近な装身具だったようで、埋葬人骨を調査した結果として、耳飾りを装着した性別は2対1で女性が多いとの報告があります。



装飾品の勾玉と垂飾
(滑坂遺跡)



縄文時代の衣服
(東京都埋蔵文化財センター所蔵)



木の実をすりつぶすための石皿と磨石
(東京都埋蔵文化財センター所蔵)

どんぐりクッキー

縄文時代の食は、旧石器時代以来の狩猟・植物採集、そして漁労によって支えられたといわれています。具体的には、イノシシやシカなどの動物やどんぐり、トチ、クルミ、クリなどを食べて生活をしていました。中でもどんぐりは、貴重な主食の一つでした。

そのどんぐりを石皿と磨石で粉にして焼きあげた「どんぐりクッキー」は、縄文時代の遺跡から発見されたことから「縄文クッキー」とも呼ばれています。

なめがき 滑坂遺跡

縄文時代中期の環状集落の遺構などが発見された滑坂遺跡(みなみ野五・六丁目)では、89棟の住居跡や炉穴、イノシシなどの動物を獲るためのおとし穴の遺構が見つかっています。また、大形深鉢などの土器やイノシシ形土製品、装飾品の勾玉や垂飾なども発見され、調査結果から当時の人々の暮らしを垣間見ることができます。



環状集落の遺構



住居跡出土の土器

古代の人々の暮らし

地域の首長が築いた古墳

八王子市域には、川口古墳、小宮古墳、鹿島古墳、ひよどりやま鶴山古墳、狐塚古墳、北大谷古墳など数多くの古墳があります。都指定旧跡の北大谷古墳(大谷町)は、凝灰岩質砂岩の切石を積み重ねた横穴式石室を持つ、7世紀ごろに築造された多摩地域最大の円墳です。

北大谷古墳（都指定旧跡）

朝廷に献上する馬を育てた牧

平安時代、多摩川の上中流域には、「牧」と呼ばれる牧場がありました。これらの牧のうち、特に「勅旨牧」と言う朝廷直轄の牧場では、馬を飼育・調教し、毎年一定の頭数を朝廷に献上していました。八王子市域には、由比牧と石川牧、小野牧があったと考えられています。



一大窯業拠点

武蔵国府などに瓦や須恵器を供給した御殿山窯跡群は、南関東最大の窯跡群である南多摩窯跡群の中にあります。御殿山窯跡群は東西約3キロメートル、南北約1.5キロメートルという広範囲に及び、少なくとも200基を超える窯が造られたと考えられ、一大窯業拠点となっていました。



主な構成文化財

① 梶田遺跡



国史

〔梶田町〕

縄文時代中期の良好な集落跡で、^{たてあなじゅうきょ}竪穴住居が多数発見され、数百年にわたり居住の場としてくりかえし利用されてきたことがわかる遺跡です。一部を遺跡公園として整備し、現在は「国史跡梶田遺跡公園」として一般に利用されています。

② 船田石器時代遺跡



国史

〔長房町〕

縄文時代中期末から後期初頭の、敷石住居が現われ始める時期の敷石住居跡が発見された貴重な遺跡です。住居は直径5メートルほどの範囲に扁平な川原石を敷いたもので、中央に直径60センチメートルほどの炉があり、土器が埋められていました。

③ 北野石器時代住居跡



市史

〔北野町〕

縄文時代後期の2本の石棒を伴う敷石住居跡です。昭和16年(1941年)に当時の市立由井第一小学校敷地内で発見されましたが、区画整理に伴い、昭和38年(1963年)に北野天満社に移築されました。

④ 北大谷古墳



都旧

〔大谷町〕

凝灰岩質砂岩の切石を積み重ねた、全長約10メートルという多摩地域最大規模の石室を持つ、直径39メートルの円墳です。古墳時代後期のもので、多摩地域に覇権を及ぼした有力者の墳墓と考えられています。

⑤ 中田遺跡



市史

〔中野山王三丁目〕

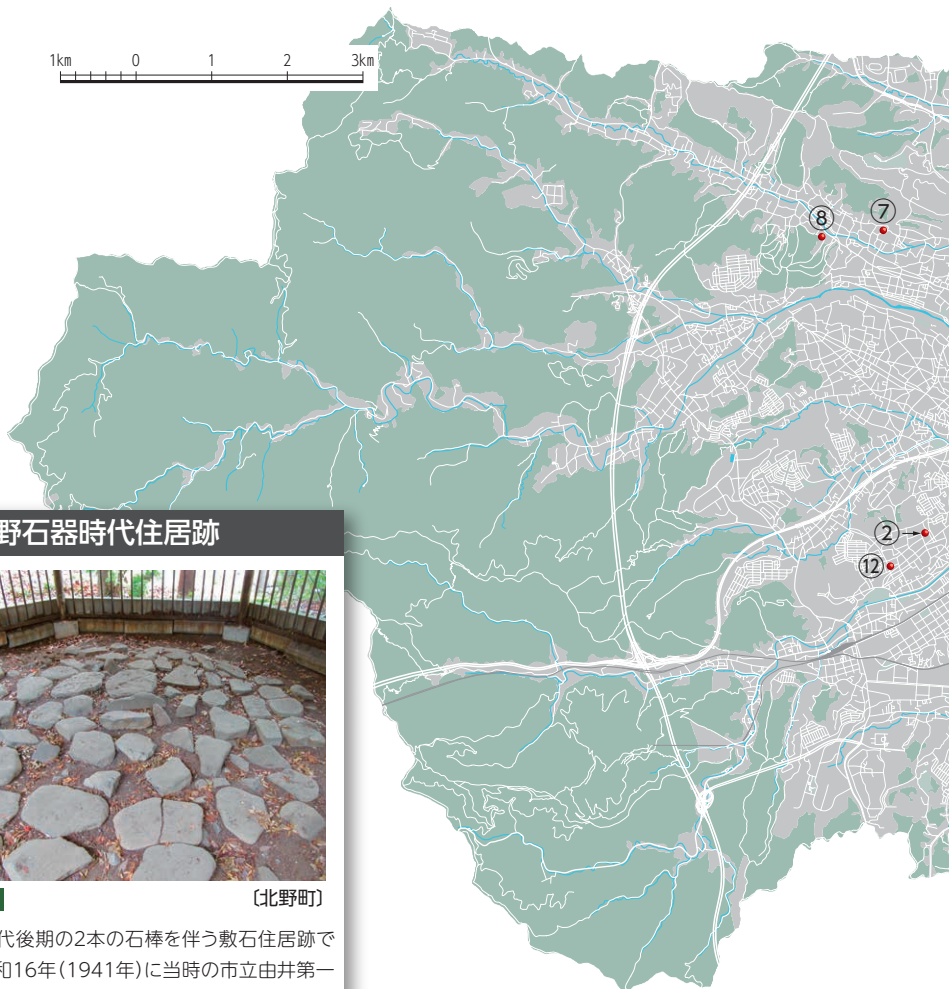
縄文時代から奈良・平安時代まで続く集落の遺跡です。特に古墳時代後半から奈良・平安時代にかけての遺構が多く、川口川のほとりで水田を耕して、農業を営んでいたムラだったと考えられています。一部を遺跡公園として整備し、現在は「中田遺跡公園」として一般に利用されています。

⑥ 御殿山窯跡群



〔鍵水・宇津貫町・七国一〜三・六丁目〕

御殿山窯跡群は、平安時代に瓦や須恵器の一大産地だった窯業拠点の遺構です。そのうち八王子みなみ野シティ地区で発掘された47基の窯跡からは約4万個の須恵器が出土しており、膨大な生産量を誇っていたことがうかがえます。



国史：国指定史跡

都府：都指定有形文化財

市有：市指定有形文化財

※出土品については発掘地を示しています

都旧：都指定旧跡

市史：市指定史跡



⑦縄文式土器



市有 考古資料

市内の各遺跡からは、数多くの縄文土器が出土しています。中でも、旧都立第二商業高等学校旧蔵の中原遺跡(川口町・犬目町)、小比企向原遺跡(小比企町ほか)で出土した縄文土器には顔面把手付土器などの優品が見られ、一括して市の有形文化財に指定しています。現在、郷土資料館が所蔵しています。

⑧子抱き土偶



昭和43年(1968年)に都立南多摩高等学校(現都立南多摩中等教育学校)の生徒が、宮田遺跡(川口町)から発掘した縄文時代中期の土偶です。幼子を抱いた土偶はとても珍しく、日本で初めての発見でした。現在、国立歴史民俗博物館が所蔵し、郷土資料館には複製があります。

⑨イノシシ形土製品



滑坂遺跡(みなみ野五・六丁目)から出土した縄文時代の土製品です。腹部に乳首を表現した造形が特徴的で、イノシシを多産で生命力の強さを備えた母性の象徴として作られたと考えられています。現在、郷土資料館が所蔵しています。

⑩ジョッキ形深鉢



意匠を凝らした造形が特徴的な縄文時代中期の土器で、ほぼ完全な形で日南田遺跡(寺田町ほか)から出土しました。高さ11センチメートル、口径7〜8センチメートルで、太い持ち手が特徴的です。現在、郷土資料館が所蔵しています。

⑪宇津木向原遺跡方形周溝墓出土品



都府 考古資料

昭和39年(1964年)に、宇津木向原遺跡(宇津木町ほか)で縄文時代から弥生時代の住居跡や古墳の周溝が発見されました。ここで発見された四方を溝に囲まれた墓跡は、全国で初めて「方形周溝墓」と命名されました。この遺跡の方形周溝墓からの出土品は、都の有形文化財に指定されており、現在、郷土資料館が所蔵しています。

⑫小銅鐸



弥生時代末から古墳時代初頭のものとして推定される小銅鐸で、中郷遺跡(長房町)で発見されました。総高3.3センチメートル、裾部分の長径2.6センチメートル、短径1.6センチメートルという、珍しい小さな銅鐸です。現在、郷土資料館が所蔵しています。

文化財の保存・活用事例

八王子市郷土資料館の展示と縄文体験

郷土資料館は、原始・古代の資料から近現代までの市内の歴史・民俗資料などを調査・研究・収集・展示し、郷土の魅力ある歴史・文化を学ぶ場として、また、広く情報を発信する拠点として様々な事業を行っています。

原始・古代の遺跡に関連する事業としては、市内の数多くの遺跡から発掘された出土品の展示や縄文時代をテーマにした体験プログラムを実施しています。毎年開催している火おこし体験と縄文土器づくりは、人気のイベントとなっています。



市内の遺跡から発掘された出土品



体験学習 火おこしと縄文土器づくり

東京都埋蔵文化財センターの展示とイベント

東京都埋蔵文化財センター(多摩市)は、多摩ニュータウン内で見つかった土器や石器類の出土遺物を収蔵するために、昭和60年(1985年)、多摩ニュータウンNo.57遺跡の西側部分を発掘調査して建設されました。展示ホールには、八王子市域(主に多摩ニュータウン遺跡)で発掘された土器なども展示されています。

原始・古代の暮らしを体験する「縄文食体験」「勾玉・耳飾りを作ろう」「植物の繊維から糸を作ろう」「ガラスでトンボ玉を作ろう」といったイベントも開催されています。



遺跡庭園「縄文の村」中期竪穴住居(復元)



縄文食体験